エス・ディー・ジー・ズ

SDGs いたばし ネットワーク ニュース

創刊号

誰一人取り残されない
社会を目指して

発行：SDGsいたばしネットワーク
発行日：2019年7月13日

＊**SDGs**：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の(そして**地域の）誰一人として取り残さない**ことを誓っています。

もくじ

特集 2030年に向けて　キックオフ！―SDGsいたばしの集いを開催しました―　…2
SDGsネットワークニュースの発刊にあたり　…2
報告　SDGsいたばし地域の集い　…5
ＳＤＧｓ「誰も置き去りにしない・させない」を取り組む、私たち“いたばし”の歩み　…6
ＳＤＧｓいたばしネットワークのこれから　…7
掲示板（イベント・募集等の情報）　…8

SDGsネットワークニュースの発刊にあたり

"SDGs"（持続可能な開発目標）は、国連加盟国193カ国の総意で決定された2030年までに達成すべき17の目標を言います。21世紀に入り深刻化の進む―貧困、飢餓、健康・福祉、教育、ジェンダー、衛生、エネルギー、経済、産業、格差、住居、消費社会、環境、平和…―多くの課題に対し、具体的な目標が設定されています。

これらの目標の根幹には「誰も置き去りにしない」という理念があります。貧困のない、持続可能な世界を、人間らしい生活を次世代に受け継いでいくため、世界で、日本で、地方自治体や様々な団体、企業等も取り組みを始めています。

この度、当事者とともに、地域の課題をともに学び合いながら協働して、解決に取り組むため「SDGsいたばしネットワーク」を設立しました。このニュースでは、私たちの想いや取り組み、区内外の諸状況等を整理し発信していきます。皆様と共に豊かな人財や団体のネットワークを形成し「誰も置き去りしない・されない」板橋や社会を一緒につくっていきたいと思います。

2019年7月13日　SDGsいたばしネットワーク

特集　2030年に向けて　キックオフ！―SDGsいたばしの集いを開催しました―

去る、2019年3月23日（土）に「SDGs・いたばしの集い」が開催されました。開催にあたっては、173団体の賛同・協力を得て、当日は、616名もの方にご参加いただきました。集いでは、「SDGsいたばし宣言2019（４ページ参照）」が採択され、板橋区のSDGsの実現に向け、大きな一歩を踏み出しました。

●SDGsとは何か？

はじめに、帝京大学の山本先生やSDGs市民社会ネットワークの新田さんから、SDGsの説明や概念が生まれてくる背景について、お話いただきました。

SDGsが生まれてくる背景には、日本と世界・地球の大きな変化があります。世界人口は1980年前後の45億人に対し、現在は73億人。輸入品を含む食料全体の48%を捨てている日本はフードロス世界第1位。高齢者1人に対し1965年は9.1人で支えていたのが、2050年には1人で支えないといけない。この状況のままでは、日本と世界・地球は持続不可能になる、という危機意識の下でSDGsという目標が生まれました。SDGs行動計画（2015年）のタイトルは、「我々の世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」であり、北朝鮮などの国を含め世界193ヶ

開催概要（プログラム）

SDGsいたばしの集い
2030年へ　―誰も置き去りにしない・されない社会を―

日時：2019年3月23日（土）18：30～21：00（開場18：00）
会場：板橋区立文化会館大ホール
プログラム
趣旨説明「2030年にむけて　ともに」
　山本　秀樹（帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授）
来賓あいさつ　　坂本　健さん（板橋区長）
テーマ：みんなの広場
「SDGsと私たち＆いたばしと世界のこと…」
1.「SDGsってなあに？ミニ講座」
新田　英理子さん（SDGs市民社会ネットワーク事務局長代行
2. みんなで考えてみよう！
「いたばしの希望と未来をつくる＝SDGs」（活動事例報告）
①SDGs＝私たちの“今と未来”を学び・つくる
　板橋区立赤塚第二中学校
　ピース・スコーレ（平和の学校）
②区民一人ひとりの尊厳ある今と未来を実現するSDGsの取り組み
　子ども・若者支援ネットワーク
　高齢者の尊厳を実現するネットワーク
　株式会社アイカム
応援の言葉
　板橋区町会連合会　板橋区医師会
　ユネスコ・アジア文化センター
これからの取り組みについて（SDGsいたばし宣言2019）

講師の新田さん

国のすべての国が採択したことに非常に価値があると言われています。

また、目標には以下の5つの要素があるそうです。

①人間が中心となりながら自然と調和する

②自然と調和しつつ、しっかりと豊かさを追求していく

③地球のことを第一に考えないといけない

④他国と協力しながら平和と人権を尊重していくこと

⑤パートナーシップを組みながら目標を達成していく

●活動事例報告―どうやって実現するの？

①学校での学びの事例

SDGsを社会科の教材にし学んできた区立赤塚第二中学校の中野先生と生徒さんが登壇されました。先生からは「これからの学びが向かうところは、よりよい自分やよりよい社会をつくる人となること。SDGsを生徒と共有していくことは、厳しい時代の中でも主体的によりよい社会（持続可能な社会）を実現していくための第一歩であると考えています。それを中学校の授業の最後、そして未来に向かっていくためのスタートとしています」とし、中学3年生の竹内さんからは、自分が生きている環境や国などを相対化して見ていくことの重要性、同じく中学3年生の岩谷さんからは、この世界の不平等さと、これからの時代を担っていく自分たちの責任、そしてその中で自分たちにできることとして、まず人の痛みを知ることだというお話がありました。

次に、地域の平和学習サークルピース・スコーレから報告がありました。区では「中学生平和の旅」という事業を行い、毎年広島・長崎に中学生を派遣しています。その旅に参加した中学2年の岩渕くんからは、「長崎平和の旅に参加して、日頃から平和を身近に考える環境がある長崎の人たちとそうではない自分たちとの意識の差を感じたけれども、板橋でも地域の大人たちと遠慮することなく自分たちの意見を言い、話し合える場に参加したことは大きな刺激になった。と同時に平和をつくるためには深い学びが大切であり、その深い学びとは戦争下で生きた民衆の歴史の中から、その時にできたこと、できなかったことを学ぶ中で、いま市民がするべきことが見えてくるのではないか」と語られました。

②命・尊厳の視点から

子ども若者支援ネットワーク会議の六郷さんから、区民や各支援団体が、子ども・若者の視線からお互いを理解しあい、手を携え、制度からこぼれ落ちている、もしくは制度下では解決できない課題を丁寧に拾っていき、多角的な視点で考えていく場としての活動報告がありました。

高齢者の尊厳を守るネットワーク代表世話人の杉田美佐子さんからは、高齢期の過ごし方についてお話しがありました。自分が幸せかどうかを確認しつつ、自分の周り（隣近所）に知らない人はいないか、様子が変わってしまった人がいないか、行事や祭りなどに出てこなくなった人はいないかなど、地域を見回し、必要に応じてさまざまな人や機関などと連携をはかり、人とのつながりを保つことの重要性などが語られました。

最期に、生きた細胞や組織を顕微鏡撮影しながら命の科学映像を作り続けてきた株式会社アイカムの川村さんからは、「すべての基本はいのち、生きていることである。生きていることを教えるのではなく、いのちの姿を見て・感じ・考えてもらいたい」と語られました。

●事例報告を通から見えてくるもの

総括として、山本先生から「地域の中で学びの場や機会を多様に展開していくことが重要」、新田さんからは、「制度と非制度のちょうど中間に

位置づくような互いに協働で取り組みやすい領域、“やわらかい制度化”を行っていけるとよい」というお話がありました。

また、ユネスコアジア文化センター教育協力部長の大安さんは「個人の自立や自己責任が強調され、人に頼るのが難しい社会になっている中で、板橋ではお互いに頼り合う、足りないところを補い合うような、時代に合った形で新たな仕組みをつくろうとしているのではないかと」話されました。

●板橋の活動によせて

SDGsでは、各団体や個人のパートナーシップ（連携・協働）が目指されています。集いを開催するにあたり、176団体の賛同を得て実施しました。

また、板橋区長からは、区のSDGsの取り組みを推進するという力強い宣言もありました。さらに、板橋区町会連合会並びに板橋区医師会から応援の言葉を頂きました。

最後に、来場者とともに「誰も置き去りにしないいたばし宣言」を採択して、閉会しました。

1

2

3

4

5

1．坂本区長　坂本さん
2．板橋区町会連合会　木村さん
3．板橋区医師会　水野さん
4．ユネスコ・アジア文化センター　大安さん
5．司会の神元さん。SDGsいたばし宣言は、来場者に手にしている紙を掲げてもらい採択しました。

SDGsいたばし宣言2019

今、かけがえのない命が、そしてかけがえのない母なる地球が悲鳴をあげています。この尊い生命を、この尊い地球を、そして、この地域を守りたい…

世界中の国々は2030年に向けて、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）－貧困のない、持続可能な世界を次世代に受け継いでいくため、貧困、飢餓、健康、福祉、教育、ジェンダー、格差、環境、平和など17の目標の達成に取り組んでいます。

今ここに、「SDGsいたばしネットワーク」の設立趣旨である、私たちの地域“いたばし”の、そして、世界のこども・若者から高齢者まですべての市民一人ひとりが誰も置き去りにされず、生き生きと暮らし続けることができる“持続可能な”社会の実現をめざす取り組みに賛同する181団体の参加協力を得て開催された「SDGsいたばしの集い」に参加した私たちの総意として、本日、次のとおり宣言します。

1．「誰も置き去りにしない・されない社会」の実現をめざし、私たち一人ひとりが人間の尊厳を脅かす課題を直視し、垣根や差異を超えてつながり合い、ともに学び合い、協力しあいます

2．置き去りにされている課題を身近な地域で学び合える場づくりに取り組むとともに、私自身の課題として学びます

3．置き去りにされている課題の根っこを発見し、ともに協力し解決に取り組みます

4．未来の希望である子どもたち・次世代をみんなで守り育み、子どもたちが参画できるまちづくりに取り組みます

5．私たちの、そして、SDGs いたばしネットワークの取り組みを広く発信し、日本と世界の人々と友だちになります

2019年3月23日　SDGsいたばしの集い

私たち板橋のＳＤＧｓ標語（キャチコピー）

Ｓ　すべての板橋区民は
Ｄ　“誰も置き去りしない・されない”を目標に
Ｇ　具体的な自分ごととして行動します。
Ｓ　　さあ！つながろうＳＤＧｓ

報告 SDGsいたばし地域の集い

区内を6ブロックに分け、各地域でSDGs「誰も置き去りにしない」社会の実現に向け地域課題や解決策などについて学び合いました。

●地域の集いを終えて

板橋区の人口は約57万人に。10万人規模の自治体が6つ集まった規模と捉えると、今回6つの地域(ブロック)に分かれて開催したことに大きな意味があると感じました。

また、それぞれのブロックの地域特性～住宅街か、工場や企業が多いかによって、日中・夜間の人口が異なり、人との繋がりも変わる・経済格差の状況等～によっても、問題提起・解決方法が異なることが、今回の比較により見えてきました。

板橋区内にはいろいろな地域があるという再発見と地域の実情に応じた解決方法の検討が重要だと感じました。

当日のプログラム

- あいさつ
- 3月23日の集いのふりかえり
- SDGsネットワークについて
- アイスブレイク
  最近、気になっている問題を1つ書いて紹介
- グループワーク
  ①各自、気になるキーワードを１つ考える
  ②グループで①を紹介しながら3つにまとめる
  ③それぞれのキーワードの共通点・相違点を話し合い課題を整理する
  ③整理した課題を解決するための、2030年に向けたアクションを考える
- 今日の振り返りとまとめ

地域課題や解決策などを話合いました！

●ワークショップのまとめ

地域ワークショップでは3つのワークを行いました。
①2030年こんな地域になったらいいな、
②気になること3つの共通点、相違点、
③これからのすすめかた。

↓

①は2030年までに達成すべき目標、
②は取り組みで共通に大切にしたいこと、
③はどんな流れでどう取り組むかにつながります。
孤立している人たちを認め、つなげ、支え合うコミュニティをつくるビジョンが見えてきました。

グループ発表の様子

■各ブロックの活動内容：2019年5月12日～7月6日（延べ235人）

	会場	日時	参加者	一言メモ
1	中台・常盤台・富士見ブロック **常盤台地域センター**	5／12（日） 13:30～16:30	32人	初回開催で多少緊張も見られたが、発想豊かな意見が飛び交っていた。
2	桜川・大谷口・仲町ブロック **桜川地域センター**	5／19（日） 9:30～12:00	34人	過激なネット画像が「人の痛みを感じられない」要因か。現代ならではの課題。
3	板橋・仲宿・熊野ブロック **仲宿地域センター**	5／25（土） 13:30～16:30	43人	「人とのつながり」とプライバシー問題をどのように絡めるかも課題。
4	志村・清水・前野 ブロック **まなぽーと大原**	6／1（土） 13:30～16:30	36人	既存のコミュニティーをいかに「継続・伝承・発展」するか。モデル地域の存在。
5	成増・赤塚・徳丸ブロック **まなぽーと成増**	6／22（土） 13:30～16:30	41人	政治経済への関心が高く、世界の問題が「自分ごと」になっている。
6	高島平・舟渡・蓮根ブロック **高島平区民館ホール**	7／6（土） 13:30～16:30	39人	「ババ達は、このまま穏やかにポックリ逝きたい！」そんな存在が頼もしい。

ＳＤＧｓ「誰も置き去りにしない・させない」を取り組む、私たち“いたばし”の歩み

このページでは国連発のＳＤＧｓ「誰も置き去りにしない」をなぜ私たち・いたばしで、取り組むようになったのかについて、その歴史（歩み）と主な取り組みを案内したいと思います。

前掲の通り、今回のSDGs いたばしの集いは、177団体と616人の参加者を得て、実施することができました。このページでは、177団体のつながりをつくりだした、これまでの歩みのについてご案内します。

2001年、ネットワークの中核的な組織（中間支援団体）である、NPO法人「ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし（以下、学習支援センター）」が設立されました。板橋区では、こうした市民活動団体が1980年代「国連障害者の10年」より障害者の権利擁護を中心に活動してきた経緯があります。

学習支援センターでは、1998年から板橋区社会教育会館と共同でESDの概念を取り入れた「いたばしボランティア・市民活動フォーラム」を毎年実施し、地域課題などを学習する場を提供しています。こうした活動が評価され、2014年岡山市におけるESD-CLC国際会議において、日本を代表する二つの事例に選定されました。

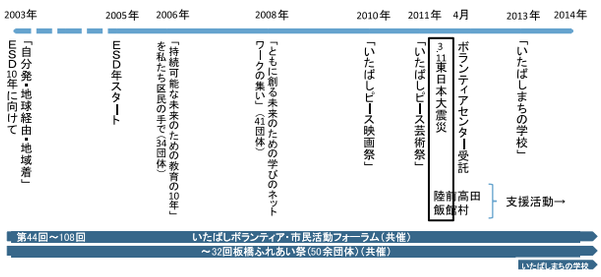
この様に、多様な分野・課題を学び合う中で、区内の団体・機関とつながりました。これらの関係を活かして、今回の2030年をひとつの大きな目標にしたSDGs「誰も置き去りにしない」の取り組みのスタートを切ることができたのです。

社会の課題・世界の課題について学び合う

・127回に及ぶ「いたばしボランティア・市民活動フォーラム」の実施

分野	回数	月日	テーマ
ボランティア	第1回	1998年5月30日（土）	世界のみんなと手をつなごうよ～NGOで国際協力ボランティア
福祉	第15回	2001年2月10日（土）	介護保険制度の課題を考える～地域住民と行政の取り組みを学ぶ～
子育て	第50回	2003年9月3日（水）	かけがえのない子どもたちの命と未来をまもるために
人権	第18回	2001年6月17日（日）	日々の暮らしの中にある「差別・偏見，心のバリア」を考える
平和	第37回	2002年8月24日（土）	「ガンジー」の足跡が語る「平和学」「人権学」「人間学」を考える
まちづくり	第7回	1999年12月5日（日）・23日（木）	街を歩いて“バリアフリー”を考える
ESD	第44回	2003年6月10日（火）	「国連・持続可能な未来（開発）のための教育の10年」に向けての相互学習
教育（1）	第48回	2003年8月6日（水）	「総合的な学習の時間」で学校と地域の連携を考える
教育（2）	第34回	2002年5月25日（土）	「総合的な学習の時間」で問われる“学びの豊かさ”、そして私たちの関わり
災害	第99回	2012年3月24日（土）	フィルムフォーラム「飯館村のおかあちゃんたち」
ESD	第108回	2014年9月13日（土）・10月4日（土）	板橋54万人・一人ひとりの尊厳を実現する地域文化を目指して ～ESD10年の学びとこれからの実践～

板橋「ESD」10年 歩みと関連する動き→SDGs



SDGsいたばしネットワークへの期待

山本秀樹
帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授
日本公民館学会　副会長
SDGsいたばしネットワーク準備会世話人

私事ですが、2011年に帝京大学（板橋キャンパス）に着任しました。前任校の岡山大学では持続可能な開発(Sustainable Development)を進めるには地域に根差した学び(Education)が必要であり、日本の公民館をモデルにしたCLC(Community Learning Center)が世界中で必要であること（ESD-CLCモデル）を研究しておりました。

2014年10月に岡山市で開催されたユネスコ世界会議「持続可能な開発のための教育(ESD)と公民館(CLC)」で、日本の代表として報告した板橋の広瀬さん･加藤さんに会い今に至っております。板橋の特徴は、公民館はないものの区内の2つの社会教育会館（現：まなぽーと）を核にして社会課題に関する学習を続けてきたことにあります。2019年3月に開催された「SDGsいたばしの集い」では、学習会や地域での人的ネットワークを醸成するための地域に根差した会合を行い、地域の担い手を育てること。つまり、学びの場を通して住民主体で持続可能な地域社会を創っていくことが、「SDGsいたばし宣言」として提唱されました。このような取り組みは、他にも例がない貴重な取り組みであり、「板橋区のSDGsのモデル」として、板橋以外の地域にも参考になると期待されます。

ＳＤＧｓいたばしネットワークのこれから

図１は、３月２３日（土）に開催された「ＳＤＧｓいたばしネットワーク」の時に配布資料に掲載希望のある参加約157団体（協力団体の84.4%）のリストをもとに、SDGsの目標を17ゴール別に集計したものです。パートナーシップ（17）が第3位にあげられています。パートナーシップをつくる、ネットワークづくりの重要性が改めて問われています。

そこで、ＳＤＧｓいたばしネットワーク世話人などが検討し、SDGs推進のための事業計画の概要図表(図2)をまとめました。前掲の趣旨（2ページ）を基本に、課題を抱えている人を「誰も置き去りしない・されない」ための取り組みを表しました。

図の左にある①地域ブロック毎の推進から⑤広報活動は活動を推進するための柱立てとして整理しました。縦軸２つは板橋区の事業計画です。こことも必然的に関連付けて推進していく方針です。

SDGsの実現は、みなさん関係者の参加・協力が必要不可欠です。一緒に、より良い方向、内容をつくりあげましょう。

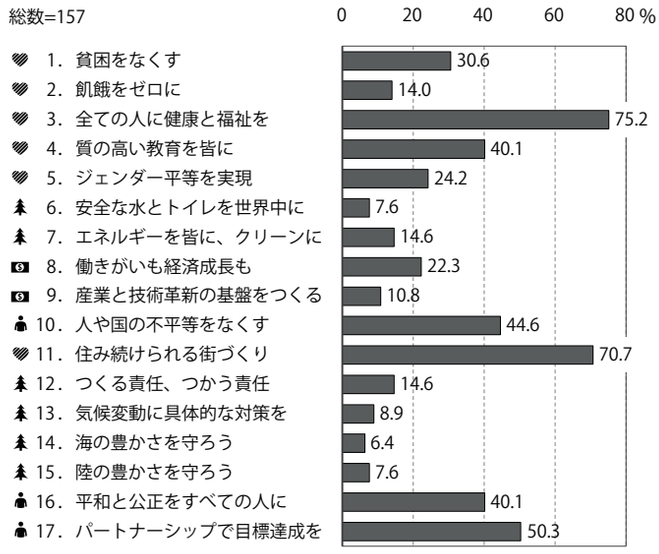


図**1**　参加団体目標分析

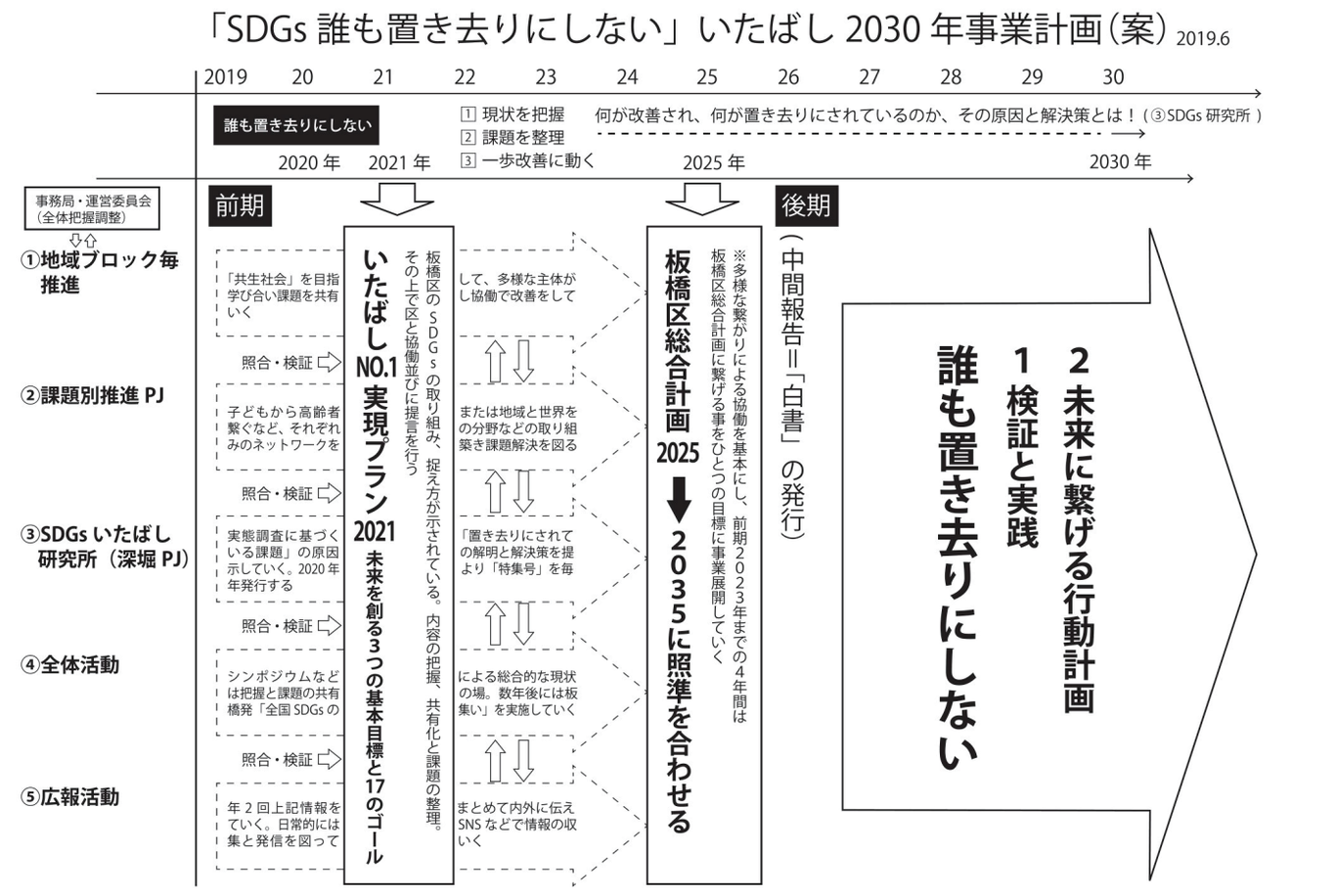


図**2**　**SDGs**いたばしネットワーク　推進のための事業計画

掲示板－お知らせ・ご報告など－

ご参加 イベント お待ちしてます！

SDGs（エスディージーズ）って何だろう？

■全体会　SDGsいたばしネットワーク設立総会

日時：2019年11月30日（土）　13：30 開始（受付13:00）

会場：仲宿地域センター

お力を 募集 お貸しください

■ボランティア募集

一緒にSDGsいたばしネットワークを運営していただけるボランティアの方を募集しています。興味がある方、詳しく話を聞きたい方は、下記までご連絡ください。

活動例
- SDGsいたばしの事務局（交通費・昼食費として1,000円）
- 映画、演劇、音楽などの活動
- ニュースや冊子等の原稿作成・構成
- Facebook等の管理や運営、情報発信
- イベント、勉強会の企画や運営

■ネットワーク参加団体募集

ネットワークへの参加団体を募集しています。現在、177団体が参加されています。一緒に、SDGsの具現化に向け、パート　ナーシップを組んでいきましょう。（別紙の団体リストをご覧ください）

ご支援 報告 ありがとうございました

54,937円　＊2019年6月20日現在

（内、SDGsいたばしの集い：**42,786円**）

■寄付募集

活動を推進するための寄付を募集しています。

■次号発行

2020年1月に2号を発行する予定です。「特集“SDGsいたばし研究所”」を予定しています。

SDGs いたばし ネットワーク ニュース

創刊号（改定）

発行者：SDGsいたばしネットワーク

発行日：2019年10月19日

〒173-0004 板橋区板橋3丁目63-5（みんなのたすけあいセンターいたばし内）

Tel: 03-5944-1366　Fax: 03-5943-1888

Mail: tasukeai-itabashi@mbr.nifty.com　ブログ：http://sdg-itabashi.blog.jp/